



地域コミュニティの再生に貢献

特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所

法人概要について

<設立経過>

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所（以下、VAIC-CCI）は、2009年にふたつのNPOの対等合併で設立されました。「生活クラブ・ボランティア情報センター（通称：VAIC）」と「コミュニティケア研究所（通称：CCI）」というふたつのNPOは、もともと生活クラブ生活協同組合を母体にして誕生しており、言わば同じ母親を持つ兄弟姉妹同士といった関係でした。

「生活クラブ・ボランティア情報センター（通称：VAIC）」（2004年設立）は、前身の任意団体が1998年から活動を開始し、ボランティアのコーディネート機能を持ち、ボラン

ティア活動支援事業を皮切りに、生活相談事業、障害者支援事業、地域交流事業、子育て支援事業など幅広く活動展開してきましたが、相談機能の充実とその体制づくりを課題としていました。

一方の「コミュニティケア研究所（通称：CCI）」（2003年設立）は地域福祉についてのシンクタンク機能を持つNPOとして誕生し、さまざまな事業を展開してきました。2006年からは調査評価機関として千葉県の認証を受け、福祉サービスの評価調査事業をおこない、また、2009年8月からは千葉県の委託事業で多重債務者等への相談事業を担ってきましたが、当初の位置づけであるシンクタンクとして「調査結果をもとに活動提案していく」という意味で、その機能を十分に発揮しきれて



介護保険フォーラムの事務局を担う

いなかったという課題がありました。

このふたつのNPOがそれぞれの事業を安定して継続し、課題を補い合い、相乗効果で新たな事業展開をめざし、より地域に貢献するものとして合併しました。

2006年には、生活クラブ生協とそれから誕生したさまざまな団体がネットワークする生活クラブ千葉グループ連絡協議会が設立されました。その目的は、生活クラブグループの総合力で社会貢献するというものです。そのグループの中においても、この合併は、地域福祉推進の担い手としての役割を強めるものと考えています。また、千葉県内で活動するNPOが数多くある中で、NPO同士の合併は県内初と聞いています。

<法人目的と理念>

VAIC-CCIIは、「だれもが自分らしく安心して暮らせる地域協同社会づくりに貢献する」ことを目的とし、以下の理念のもとに“つなぐ”をキーワードとして多様な事業に取り組んでいます。

- 私たちは個人が尊厳をもって、その人らしい生活を送れるよう支援します。
- 私たちは協同の力で、地域で支え合うネットワークづくりを推進します。
- 私たちは、活動をとおして出会った人との関係を大切にします。

<事業内容>

- ◇相談・生活支援事業
- ◇福祉サービスの評価調査事業
- ◇調査研究事業

<組織概要>

- 会員1678名（正会員79名）
- 理事12名
- 監事2名
- 介護サービス情報公表調査員（登録）75名
- 第三者評価調査員（登録）55名
- 生活再生支援相談員（登録）15名
- 託児ケア者（登録）150名
- 子育てアドバイザー 8名
- 喫茶スタッフ 20名
- ボランティア（登録）約250名

合併3年目、第一次中期計画スタートの年 テーマは「地域コミュニティの再生」

この間、日本の社会福祉は大きく様変わりしてきました。1998年に社会福祉基礎構造改革がおこなわれました。その改革の理念には、「これからの社会福祉の目的は、従来のような限られた者の保護・救済にとどまらず、国民全体を対象として、このような問題が発生した場合に社会連帯の考えに立った支援を行ない、個人が人として尊厳をもって、家庭や地域の中で、障害の有無や年齢にかかわらず、その人らしい安心のある生活を送れるよう自立を支援する」とあります。千葉県でも“誰もがありのままに・その人らしく、地域で暮らすことができる「新たな地域福祉像」”の実現に向けて高齢者、障害者、次世代の分野を横断する支援計画が展開されています。

しかし、少子高齢化社会が予想以上のスピードで進む中で国の対応は、行先が見えず、あらゆる局面で閉塞感に覆われています。中でも年金制度や医療面、介護の負担で経済感

が失速するといった社会保障制度の将来に対する不安は増すばかりです。

VAIC-CCIでは、合併後2年間の実績と活動現場から見えてきた課題やこのような社会状況を踏まえ、第一次中期計画（2011年～2013年）を策定し、テーマを「地域コミュニティの再生」としました。

<活動現場から見える地域課題>

相談機能とコーディネート機能を持ち活動する日々の現場から、「関係性の希薄さ」という課題が見えてきました。この課題はシンクタンク機能をいかした2010年度の調査研究事業（子育ての社会化研究会・法人後見プロジェクト・介護保険改正に向けたチーム会議など）から見えてきた課題と一致しています。そして「場の不足」が関係性の希薄さをますます助長し、孤立化につながっています。個人の生活は社会のすべての関係性によって成り立っていて、この関係性によって多くの生活情報（だれでもがその地域で安心して生活できるための情報）を得ることにつながっています。かつて日本社会には血縁、地縁、社縁といった人と人による相互扶助システムが機能していました。これらの縁が薄れてその結果として孤独死、無縁死、子どもへの虐待などが増え続けています。

また、核家族化による家族単位数の変化、晩婚化、非婚化による独身者の増加、子どもを持たないという選択をする人が増えるなどのライフスタイルの多様化、リストラや非正規社員の増加による職場環境の変化に加え、生活に余裕のない経済的貧困問題などもあげ

られます。経済的貧困は、社会とのつながりを奪ってしまいます。社会とのつながりを奪われることは、人としての社会的な存在価値の否定であり、人としての尊厳を見いだせなくなってしまうことも意味しています。

縁がないのではなく縁が機能していない社会、自分の支えになるような縁を感じづらい社会、自分の暮らしや命を支えてもらっていると実感できない社会において、私たちはNPOの特性をいかし、このような地域課題の解決に向けて何ができるのかという視点に立ち、地域コミュニティの再生をめざします。

<第一次中期計画 基本方針>

- ◇人と人が出合い、新たな縁を結び、相互の理解からともに暮らしやすい地域コミュニティづくりを生活クラブ千葉グループと連携してすすめます。
- ◇地域ニーズに対応し、インフォーマルサービス事業の創出の検討や子どもの一時預かり事業、成年後見事業などを新規事業として展開します。
- ◇これまでの地域活動の実践をとおして培ってきたノウハウや実績をベースに、地域コミュニティを再生する仕組みを確立します。千葉県稲毛区園生町にオープンする「生活クラブいなげビレッジ虹と風」をモデル地域としてその仕組みを確立し、他の地域へ展開していきます。
- ◇組織運営政策を確立し、事業政策と組織運営政策との相互関係をもって事業を推進します。

<地域コミュニティ再生のモデルの確立>

現在、生活クラブ千葉グループの仲間（生活クラブ虹の街、生活クラブ風の村、生活サポートクラブ、VAIC-CCI、ワーカーズコレクティブSanおよびマドレーヌ）とともに、「生活クラブいなげビレッジ虹と風」の2011年夏のオープンに向け準備を進めています。ここでおこなう事業はUR都市機構が公募した「園生団地民間事業者向け高齢者施設用地等土地貸借人」に採択されたものです。

共同事業者間で設置している合同プロジェクトのもとにある地域づくり部会では2010年8月から月1回のペースで自治会を中心とした住民のみなさんと地域懇談会を開催し、この拠点の広報と地域課題やニーズの収集をすすめています。これは、それぞれの事業者や多機能拠点としての地域課題の解決や機能向上に反映できるよう検討することを目的としています。

VAIC-CCIはこの間、だれもが自分らしく地域で暮らせし続けることができる地域づくりにNPOの特性を活かしながら取り組んできましたが、地縁組織などとの具体的な連携は課題になっていました。今回の生活クラブ千葉グループで取り組む「生活クラブいなげビレッジ虹と風」は、グループの総合力と地域住民やその地域の地縁組織などのみなさんと連携してこそ、その機能を発揮するものと考えます。

地域コミュニティの再生を目的にした「生活クラブいなげビレッジ虹と風」での多様な取り組みは、これまで私たちが各地域で取り組み獲得した手法をもとにその地域性に鑑み

実践し、今後さらにさまざまな地域に広がっていきたいと思います。そして、地域における存在価値を広げていきたいと思います。そして、地域における存在価値を広げていきたいと思います。

NPOとしての使命を果たすには

定常化社会（経済成長ということを絶対的な目標としなくても十分な豊かさが実現されていく社会、ゼロ成長社会）と言われる中で、非営利・協同セクターを含む社会的企業が台頭し地域課題の解決手段が多様化しています。しかしながら、国や自治体で言われている財源不足は今後私たちの活動資金においても大きく影響してきます。

私たちは合併を機にNPOとして活動する意味を自身に問いかけながらさまざまな事業に取り組んできました。NPOの特性として「地域課題の解決」「行政にはできない市民の自発的かつ多様な活動」「創造的で先駆的な活動」「収益性の低い活動も使命をもって取り組む」がありますが、これらのNPO特性をいかすために、私たちの強みである「人」の力を最大限にいかし、事業の継続をはかれるよう、安定経営につなげることが大切になります。VAIC-CCIの事業資金の主は、会費収入と寄付金、助成金そして委託費で成り立っています。これまでに述べている理念や活動を支えるためにも、事業継続のためにも、事業資金確保は重要であり、それにはこれまでの活動実績および成果そのものが今後の収支構造を確かなものにすると考えます。